

「肥の豊」とM-16A「不知火」との生育の違い

「肥の豊」は、M-16A「不知火」より生育が旺盛で樹冠の拡大が早い。初着果時の着花は少ないが、着果率は高く3ヶ年間の累計収量はM-16A「不知火」より多い。果実品質は、「肥の豊」でクエン酸がやや低い。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 榊英雄)

研究のねらい

県育成品種である「肥の豊」の特性を明らかにするため、M-16A「不知火」との生育、品質の違いを明らかにし、現場での栽培の指標にする。

研究の成果

1. 樹の生育は、「肥の豊」がM-16A「不知火」に比べ旺盛で、幹周、樹幅、樹高とも大きく、樹冠の拡大が早い(図1、図2)。
2. 初着果および幼木期の着花は、「肥の豊」がM-16A「不知火」に比べ少ないが、着果率は「肥の豊」で高く、3ヶ年間の樹当たりの累積収量は「肥の豊」が多い(表1、表2、図3)。なお、着果にあたっては、初着果時の「肥の豊」で着果不足であったが、2年目以降は m^3 当たり10~12個で同程度の着果程度とした。
3. 着色の推移は、M-16A「不知火」と同等で、果形指数は「肥の豊」がやや低く腰高果実である(データ略)
4. 果実品質は、糖度は差がないが、クエン酸は「肥の豊」でやや低い(表3)。

普及上の留意点

1. 「肥の豊」では、M-16A「不知火」に比べ、樹勢が強く初期の着花が少ないので、強い枝梢の夏季せん定や誘引等を実施しながら、樹冠拡大とともに優良結果母枝の確保に努める。

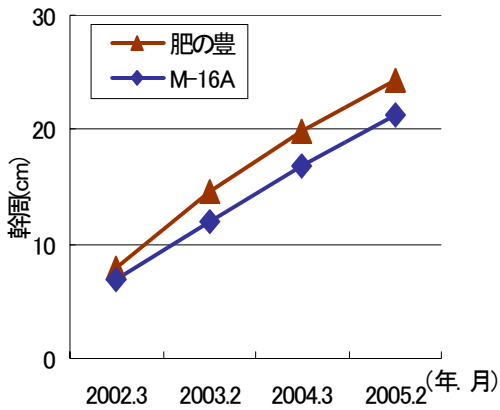


図1 「肥の豊」の幹周の推移

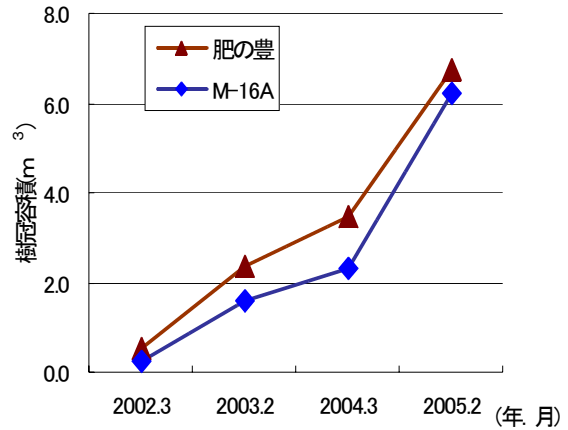


図2 「肥の豊」の樹冠容積の推移

表1 葉花比の推移

	2003年	2004年	2005年
肥の豊	51.7	58.1	10.8
M-16A	18.3	21.7	7.5

表2 着果率の推移 (単位:%)

	2003年	2004年	2005年
肥の豊	50.5	32.5	17.3
M-16A	10.3	29.8	9.9

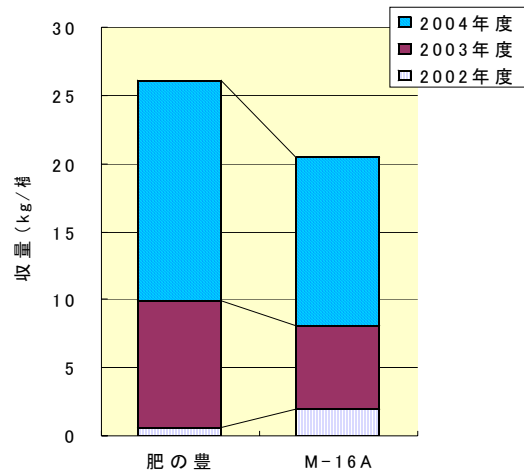


図3 「肥の豊」の一樹当たりの収量 (3ヶ年間の累積収量)

注) 摘果程度は、m³当たり10~12果で実施

表3 「肥の豊」の果実品質(2002~2004年度)

品種	一果重	糖度(Brix)	クエン酸	糖酸比
	g		g/100ml	
肥の豊	340.7	14.0	1.03	14.2
M-16A	301.4	13.7	1.18	12.2

注) 2002年1月21日採取、1月22日分析、2003年1月22日採取、2月13日分析、2004年1月28日採取、2月8日分析結果の3ヶ年平均値